

《入選》

戦争から考える人権

彦根総合高等学校 一年

西村 琉響 さん

今もなお、ロシアによるウクライナ侵攻が続き、他にも世界各地で紛争が起こっています。このような戦争や紛争は、多くの命を奪うだけでなく、差別や偏見などの人権問題を生むことにもなりません。しかも、その人権問題は、戦争の起こっている場所の外にも広がることもありま

す。戦争の中で起きる人権侵害には大きく三つあると考えます。

まず、一つ目は、戦争では、人々にとって最も基本的な人権の一つである「生きる権利」が脅かされることです。

はじめに「戦争や紛争は、多くの命を奪う」と書きましたが、そもそも人の命を奪う時点で生きる権利、人権を侵害することになります。戦争では、多く人の命が失われ、その分、多くの人権が侵害されます。また、戦争の当事国以外の国でも、人々の命が失われることもあります。なぜなら、今回のウクライナのように、食料の輸出が止まってしまつと、貧困な地域の人々は飢餓に苦しむことになります。このことも踏まえて、戦争は最大の人権侵害であると言えます。

二つ目は、戦争では、生きる権利以外にも様々な人権・権利が侵害されることです。例えば、住民や捕虜に対する虐殺・虐待や、強制連行、強制労働、財産の収奪、文化の抹殺など数多く存在します。これらは、命に直接関係がなくても、人々の心に深い傷を

負わせることになります。

三つ目は、直接戦争に関わっていない人の間で差別や偏見が起こることです。ロシアのウクライナ侵攻を例にすると、侵攻が始まってすぐの時期に、ロシア料理店への嫌がらせが相次ぎました。でも、ロシアの外で働いているロシア人からすると、戦争との関わりは全くありません。しかし、嫌がらせが起きてしまいました。また、スポーツ界では、ウクライナ選手が、ロシア選手との対戦後の握手を拒否したことがありました。また、パリ五輪に対して、ロシア・ベラルーシの大会参加によつてはウクライナが бойкот する可能性を示唆しています。このように、戦争に直接関わっていない人が、当事国出身だからという理由で差別や偏見に苦しむ人が大勢います。

以上の三つのように、戦争

は、数多くの人権侵害を生み出し、多くの人が身も心も苦しむことになります。そのため、戦争は絶対にいけないことだし、すぐに終わってほしいと思います。それと同時に、身の回りの社会で起きている人権侵害が少しずつでもなくなつてほしいと思います。戦争による人権侵害はたつた数人ですぐに解決できるものではありません。でも、身の回りのいじめや嫌がらせといった人権侵害は、数人でも解決することが可能です。人権侵害に苦しむ人は、戦争の有無に関係なくつらい思いをしています。その中に、自分の近くに自分の手で救える人がいるということをお忘れなさいと思います。